

Windows 対応

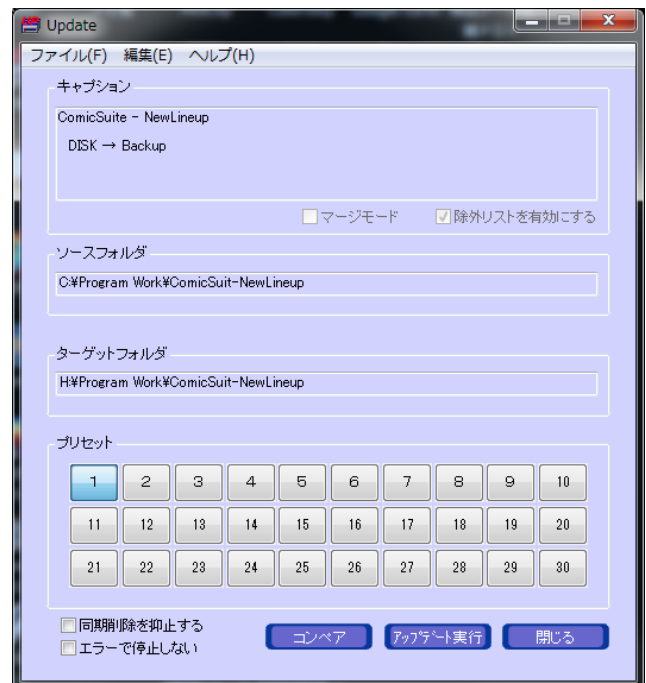
Update

Update はフォルダをバックアップするバックアップツールです。単純に言えばフォルダをコピーするツールなのですが、フォルダツリー中の更新されたものだけをバックアップし作業フォルダとバックアップフォルダを最短の時間で同期させる差分バックアップツールなのです。同期させるフォルダはプリセットに30件登録でき、簡単な操作でフォルダの同期バックアップができます。

また、バックアップを行う際に除外するファイルを指定することができます。これを使うと、VisualStudio のソースなどバックアップが必要ない大きな内部ファイルがある場合でもそれを除外して、フォルダをバックアップまたはコンペアすることができます。

さらに、タスクスケジューラと組み合わせ、オプションを指定すると、自動バックアップを行うことができます。

Update は WindowsXP、7、8.1、10 の各々 x86 または x64 で動作します。

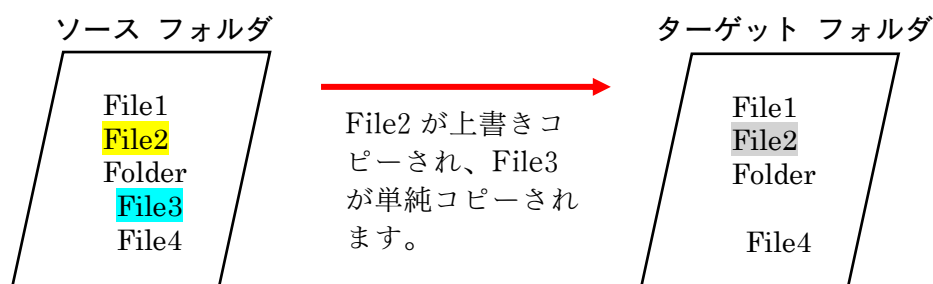


1. Update のはたらき

Update の基本的なはたらきはフォルダの同期を行うことです。もちろん一番最初はターゲットフォルダを作成し全ての内容をコピーします。2回目以降は差分のみをコピーあるいは削除してフォルダを最短の時間で同期させます。もちろん、ターゲットにコピーされたファイルはタイムスタンプを含め完全に元ファイルと同じものになります。これらの動作モードを通常モードと呼びます。

例 1 更新ファイル、新規ファイルがある場合(通常モード)

この例では、File2 が更新ファイルで、File3 が新規ファイルです。



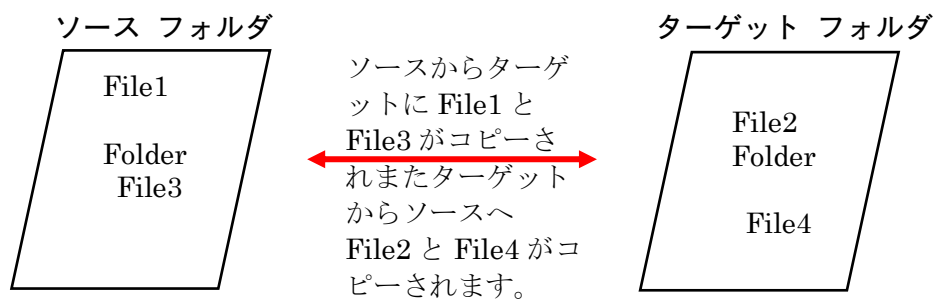
例 2 削除ファイル/フォルダがある場合(通常モード)

この例では、File2 が削除され、また Folder が削除されています。もちろん Folder は中身ごと削除されます。



また、Update には通常モードに対してマージモードというモードがあります。マージモードではソース、ターゲット両方に不足のファイルを補い合います。また同じ名前のファイルがある場合は新しいものが古いものに上書きされます。このようにマージモードではソースとターゲットの全ファイルがマージされソースとターゲットフォルダが同期します。マージモードはプリセット単位に指定できます。

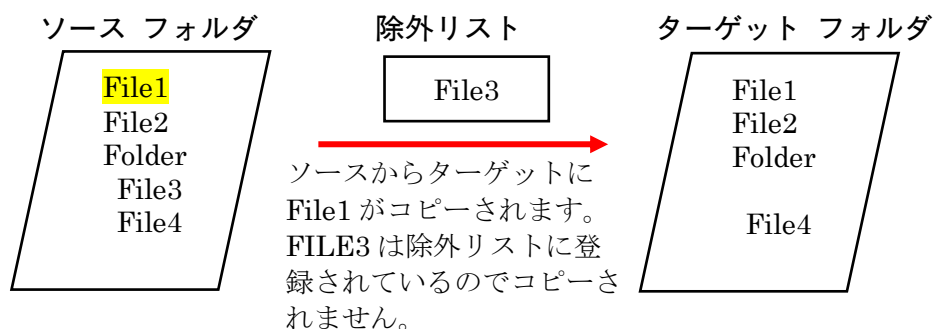
例 3 マージモードの例



Update では、同期対象にたくないファイルを指定できます。これを除外ファイルと言います。ファイル名に含まれる文字列を指定する方法と、ファイルの拡張子を指定する方法の2つがあります。通常モードでもマージモードでも除外リストに指定されたファイルを除いて処理が行われます。

例 4 除外ファイルを使った同期

この例では、ソースに更新ファイル File1 があり、ターゲットに無い File3 があります。除外リストには File3 が登録されています。



2. 基本操作

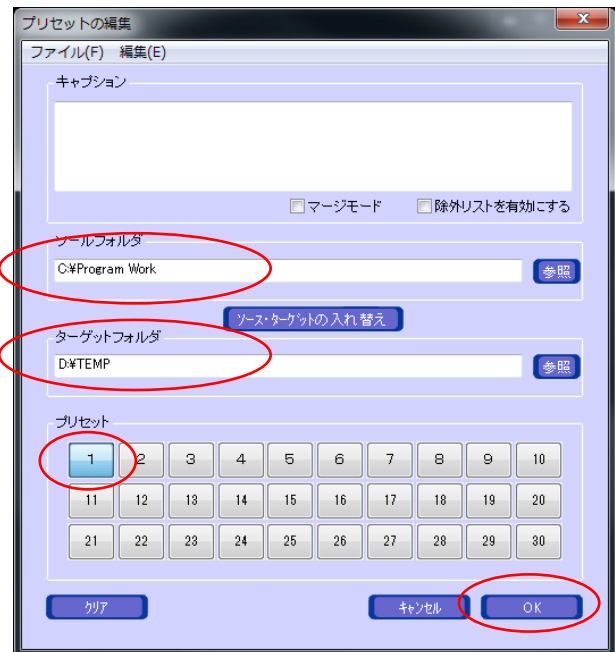
それでは、実際のバックアップがどのように行われるか基本的な操作を見ていきましょう。

2. 1 プリセットの登録

まずプリセットにバックアップするフォルダを登録します。「編集(E)」メニューから「編集モード(E)」を選択します。「プリセット編集」ダイアログが開きます。とりあえずプリセット1のボタンを選択し、プリセット1にパラメータを設定します。

ソースフォルダにバックアップしたいフォルダのフルパスを指定します。このとき参照ボタンを使えます。同じように、ターゲットフォルダにバックアップ先フォルダのフルパスを指定します。右の例ではソースフォルダに「C:\Program Work」、ターゲットフォルダに「D:\TEMP」が指定されています。

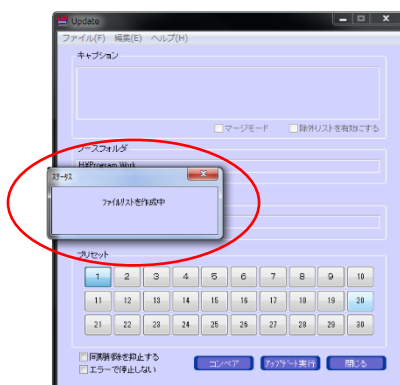
ソースとターゲットフォルダの設定ができたなら、「OK」を押してプリセット編集ダイアログを終了します。



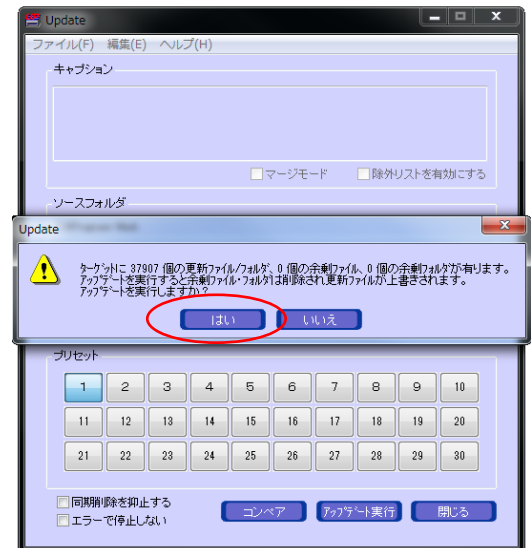
2. 2 データのアップデート

プリセットの登録が終わったら、メイン画面に戻り、「アップデート実行」ボタンを押します。

するとまず「ファイルリストを作成中」というステータスが表示されます。

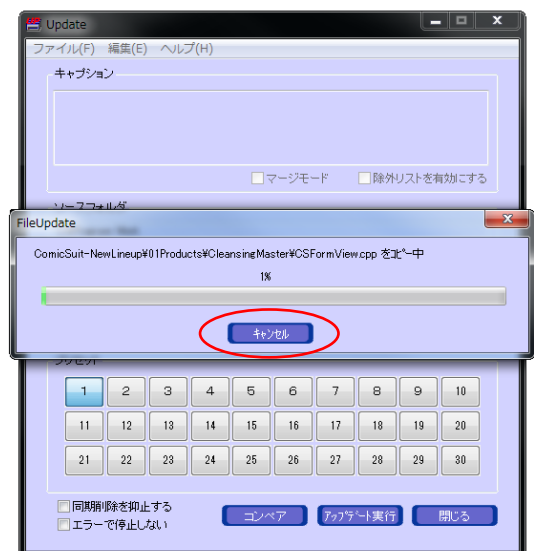


次に、詳細を表示するダイアログがでますので、処理を進めるためには「はい」をおしてください。



「はい」を押すと実際の処理が開始されます。プログレスダイアログが表示され、データの処理が進行します。

処理が進行している間に中止するためには「キャンセル」ボタンを押します。

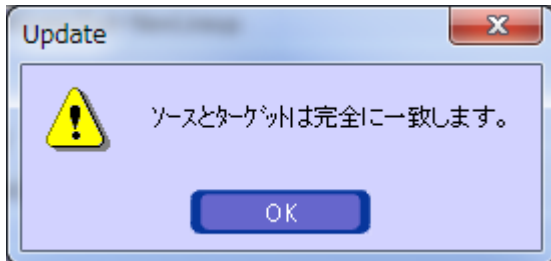


処理が完了すると、「アップデート完了」というメッセージが表示されて完了となります。

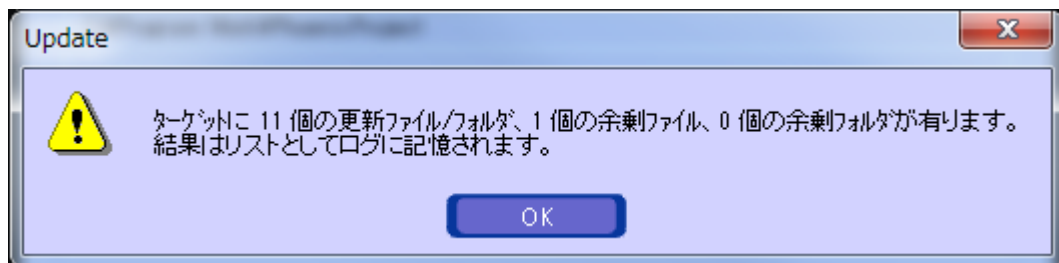


2. 3 コンペア

「アップデート実行」と同じように、指定されているプリセットのソースとターゲットフォルダを比較して、データが一致するかどうか確認するためには、「コンペア」ボタンを押します。コンペア処理が行われ、完全にソースとターゲットが一致した場合は、下図のメッセージが表示されます。



一致しなかった場合は、下図のメッセージが表示されます。




コンペア詳細な結果は、C:\TEMP\SrcList.txt、C:\TEMP\TarList.txt、C:\TEMP\Update.log に出力されます。



3. 機能詳細

3. 1 本体



ソースフォルダをフルパスで指定します。

ターゲットフォルダをフルパスで指定します。

プリセットを選択します。選択したプリセットの内容が上部に表示されます。選択されているプリセットが処理対象です。

フォルダを同期する際に、通常ではターゲットフォルダの内容をソースフォルダに合わせて削除しますが、このチェックが入っていると、ターゲットにある余剰ファイル/フォルダを削除しません。全体の設定です。

自由にメモを書くことができます。分かりやすく指定されているプリセットのタイトルを書いてください。

除外リストを有効にします。プリセット単位に設定できます。

マージモードを指定します。プリセット単位に設定できます。

処理中にエラーが発生しても停止しません。全体の設定です。

実際にフォルダを同期することなしに比較だけ行います。

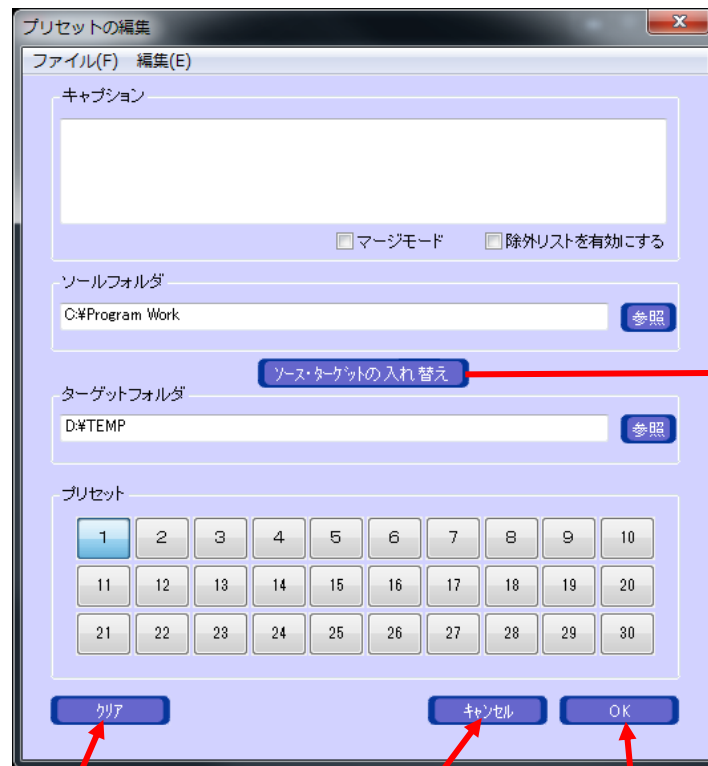
現在選択されているプリセットを実行しフォルダを同期します。

Update を終了します。

| 項目 | 機能 |
|----------------------|---------------------------|
| 「ファイル(F)」メニュー | |
| 「プリセットデータ保存(S)」 | プリセットデータと除外リストデータを保存します。 |
| 「プリセットデータ読み込み(R)」 | プリセットデータと除外リストデータを読み込みます。 |
| 「除外リストの編集」 | 「除外リスト編集」ダイアログを表示します。 |
| 「アプリケーションの終了」 | Update を終了します。 |
| 「編集(E)」メニュー | |
| 「編集モード」 | 「プリセットの編集」ダイアログを表示します。 |
| 「スケジュール」 | タスクスケジューラを起動します。 |
| 「ヘルプ(H)」メニュー | |
| 「Update のバージョン情報(A)」 | Update のバージョン情報を表示します。 |

3. 2 プリセットの編集

「編集(E)」→「編集モード(E)」で「プリセットの編集」ダイアログが表示されます。このダイアログはほとんど本体と同じですが、内容を編集することができます。本体と異なる部分を説明します。



ソースフォルダとターゲットフォルダのパスを入れ替えます。バックアップに対して反対のリストアとなります。

現在選択されているプリセットの情報をクリアします。

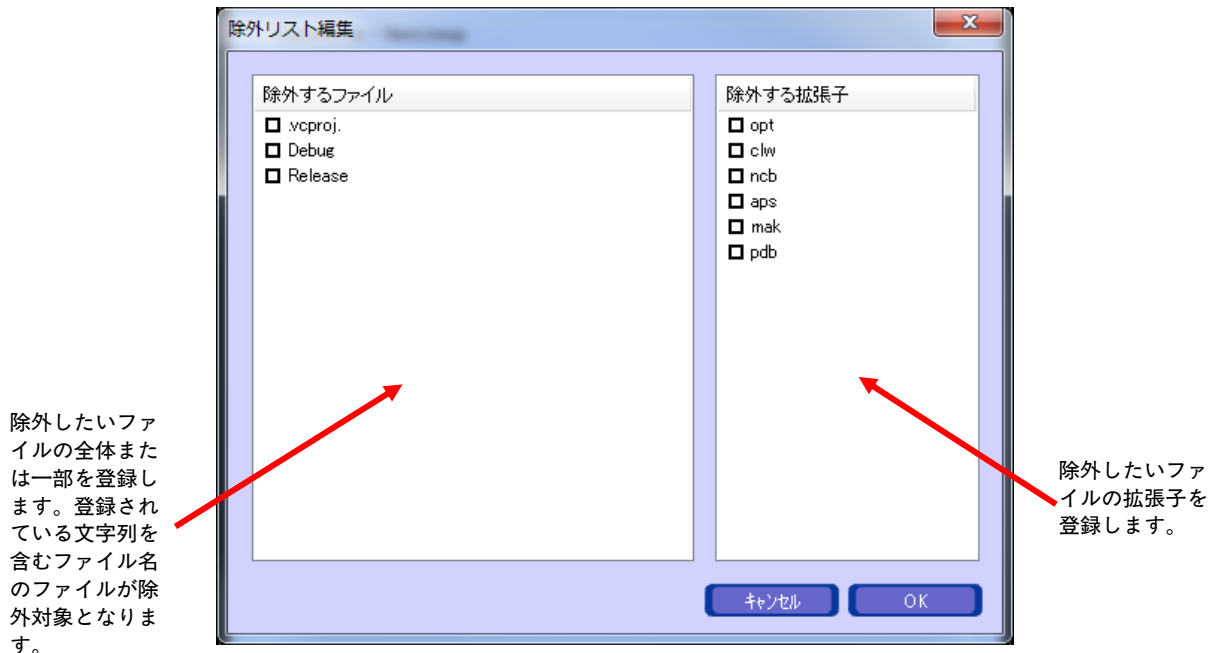
変更を破棄してダイアログを閉じます。

変更を保存してダイアログを閉じます。

| 項目 | 機能 |
|--------------|---|
| ファイル(F) メニュー | |
| プリセットデータクリア | 現在選択されているプリセット(カレントプリセット)をクリアします。「クリア」ボタンと同じです。 |
| 全プリセットデータクリア | 30個全てのプリセットの内容を削除し、初期状態に戻します。除外リストはクリアされません。 |
| 編集(E) | |
| プリセット切り取り(T) | カレントプリセットを切り取り記憶します。カレントデータはクリアされます。 |
| プリセットコピー(C) | カレントプリセットをコピー記憶します。 |
| プリセット貼り付け(V) | カレントプリセットに記憶データを貼り付けます。 |

3. 3 除外リストの編集

「ファイル(F)」→「除外リストの編集」を選択します。「除外リスト編集」ダイアログが表示されます。



「除外するファイル」と除外する「除外する拡張子」はそれぞれ、「登録文字列を包含するファイル名を持つファイル」と「登録拡張子を持つファイル」のことです。おのこのリストはORで除外対象ファイルを判断します。つまり、「除外するファイル」に無くても「除外する拡張子」にあれば除外対象となり、逆も同じです。また、除外対象はファイルだけではなくフォルダも除外対象になります。フォルダが除外された場合はその中にある全てが除外対象となります。

この2つのリストに登録されている文字列の違いは、以下の通りです。

「除外するファイル」に、「.vcproj.」とあれば、「Update.vcproj.m.seki」でも、「xxxxxx.vcproj.yyyyyyyy.kkkk」でも同じように除外されます。

「除外する拡張子」では、「ncb」とあれば、「Update.ncb」は除外対象になりますが、「Update.ncbyyyy.cpp」は対象になりません。

とまあこのような違いなのですが、これが結構役立ちます。使っていただければお分かりいただけると思います。

各リストに文字列を登録する場合には余白の部分をダブルクリックしてください。新しい項目ができ編集できるようになります。また、削除する場合はマウスで削除対象を選択して右クリックすると「削除」メニューが出ますので、「削除」を押してください。

※拡張子を入力する場合は「.」は省いてください。例えば「.apl」を登録する場合は「apl」としてください。

3. 4 プリセットデータの保存/読み込み

「2. 機能詳細」でも簡単に記しましたが、Update にはプリセットデータを保存したり、それを読み込んだりする機能があります。

Update には基本的に 30 個のプリセットしかありませんが、保存/読み込みを使ってプリセットデータを入れ替えることにより、プリセット数を仮想的に拡大することができます。

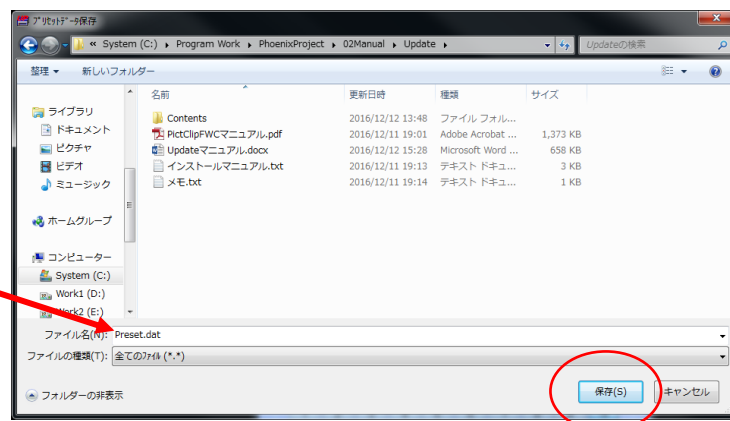
また、サーバーなどの内容をバックアップする場合など、パートにより除外ファイルを変えてバックアップしたい場合もあるでしょう。その場合はプリセットデータを保存/読み込みにより入れ替えることで、除外リストも入れ替えることができます。

・プリセットデータの保存

「ファイル(F)」→「プリセットデータ保存(S)」の順で選択します。

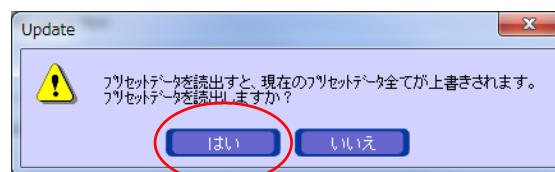
ファイルダイアログが表示されますので、保存場所とファイル名を指定して「保存(S)」ボタンを押します。

ファイル名を指定します。拡張子は“.dat”にしてください。



・プリセットデータの読み込み

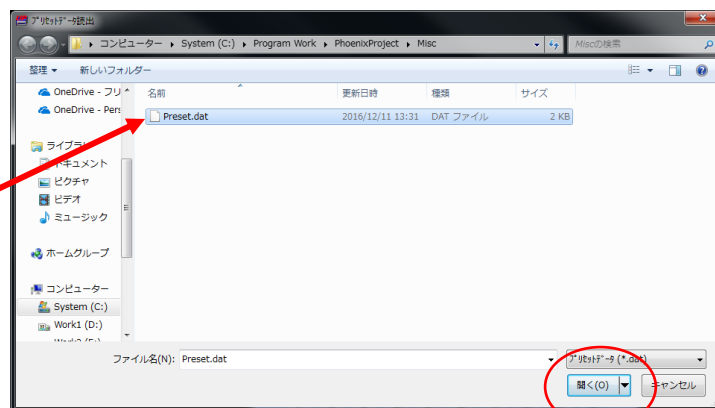
「ファイル(F)」→「プリセットデータ読み込み(R)」の順で選択します。



確認のメッセージが表示されますので、「はい」を押します。

ファイルダイアログが表示されますので、ファイルを指定して「開く(O)」を押します。

ファイルを選択します。



4. 応用操作

4. 1 Update のオプション

Update にはコマンドラインから実行する場合に指定できるオプションが2つあります。
これらのオプションを使いタスクスケジューラと連携することにより Update は自動バックアップを実行することができます。

1) Update /D

これは、同期削除抑止のオプションです。「2. 機能詳細」で記しました「同期削除を抑止する」チェックボタンと同じ働きをします。

2) Update /A 1, 4, 10

これは、Update を自動的に実行するためのオプションです。この例では、「プリセット 1 と 4 と 10 を実行しなさい。終了したら Update を終了しなさい。」という意味になります。/A オプションが指定された場合は Update は処理ご自動的に終了されます。

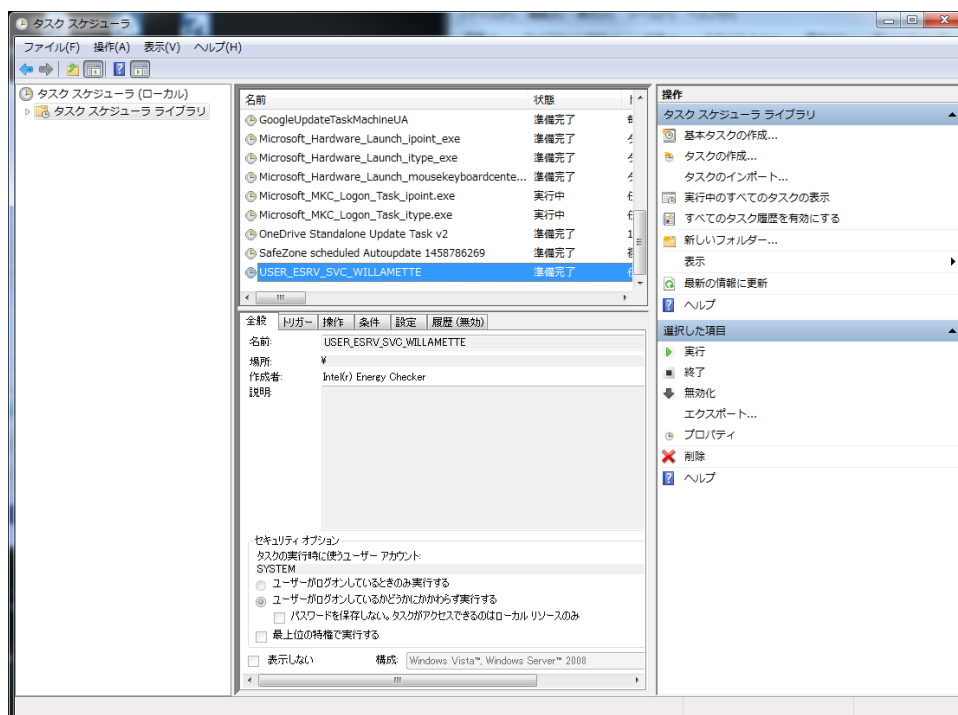
それでは詳しく見ていきましょう。まず、/A が自動実行オプションの指定です。これにつづきスペースが入ります。これは必ず必要です。

次に” 1, 4, 10 ” とプリセットが指定されますが、必ずスペースを入れないで記述する必要があります。’ , ’ は必ず必要です。

4. 2 スケジューラとの連動

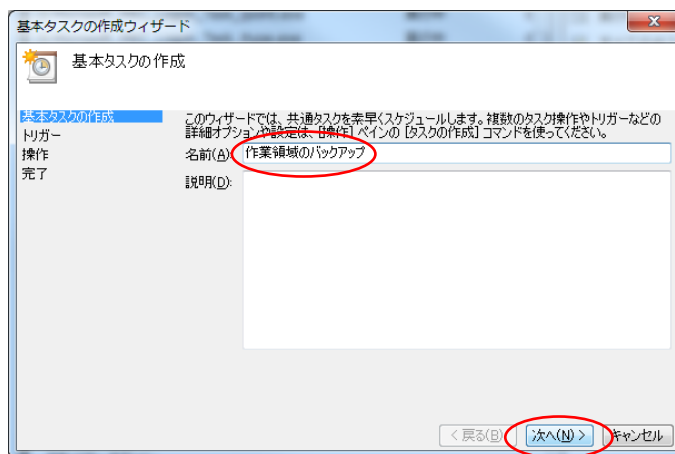
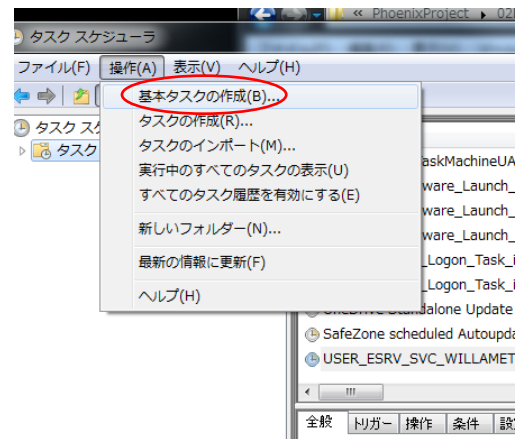
Windows タスクスケジューラに登録することにより、Update は自動バックアップを行います。

「編集(E)」→「スケジュール(S)」を選択するとタスクスケジューラが表示されます。

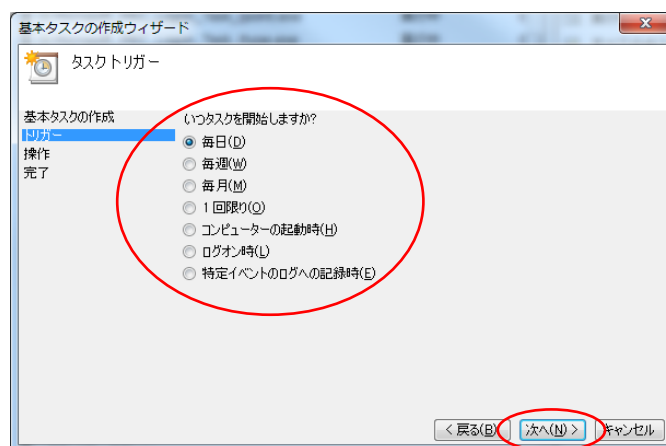


タスクスケジューラに Update のタスクを登録する方法について順次解説します。

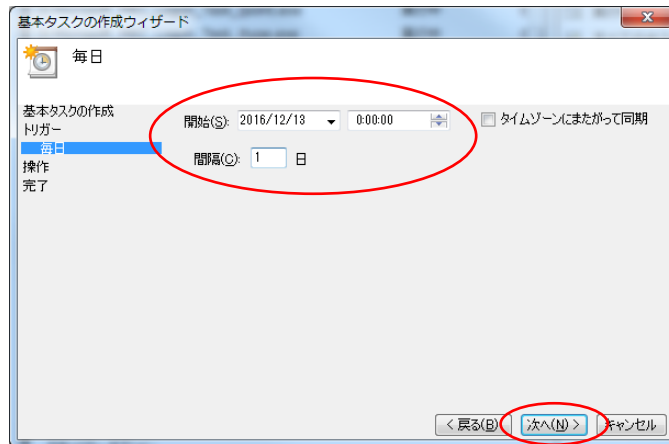
まず、「操作(A)」メニューから「基本タスクの作成(B)」を選択します。「基本タスクの作成ウィザード」が開きます。



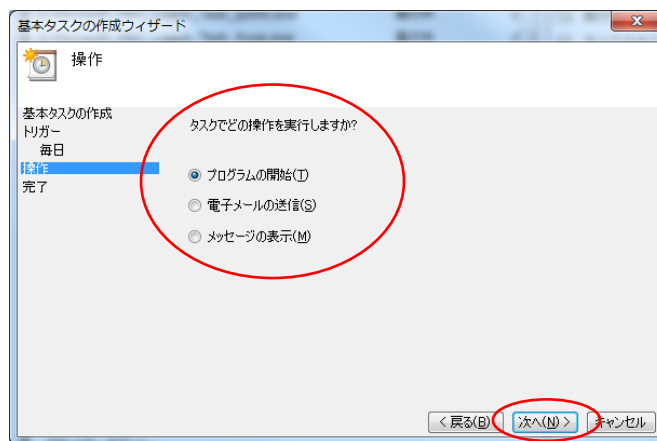
「基本タスクの作成ウィザード」が開いたら、名前を設定します。今回は「作業領域のバックアップ」とタスクに名前を付けました。次に「次へ(N)」ボタンを押します。



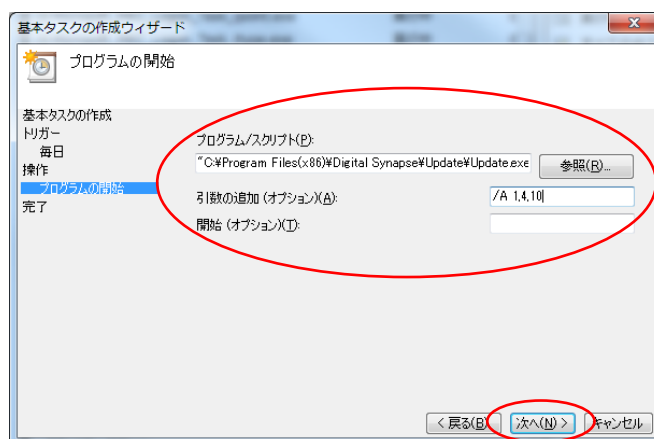
タスクをいつ開始するかを設定します。今回は「毎日(D)」を選択しています。「次へ(N)」ボタンを押します。



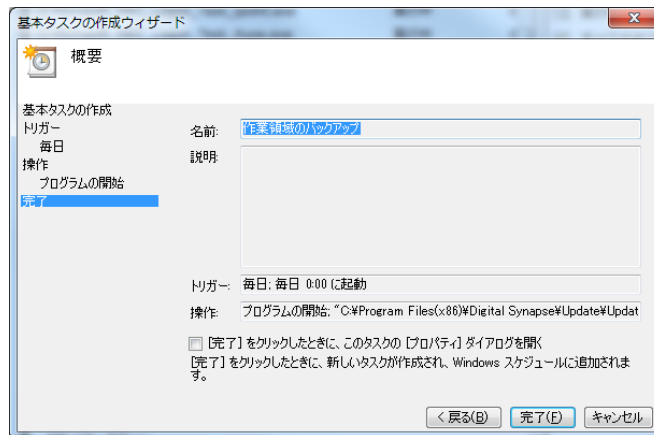
開始日時を設定します。「次へ(N)」ボタンを押します。



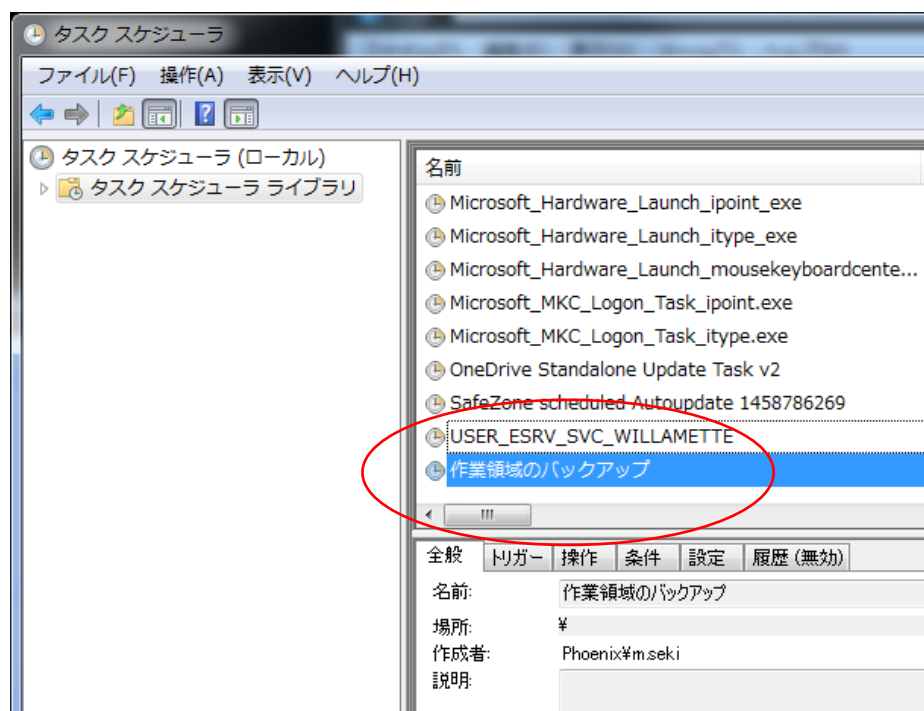
タスクで実行する操作を選択します。「プログラムの開始(I)」を選択し、「次へ(N)」ボタンを押します。



プログラム (Update.exe) を指定します。参照ボタンを使ってフルパスで Update.exe を設定してください。「引数の追加(オプション) (A)」に “/A 1, 4, 10” と Update の自動実行オプションを設定してください。「次へ(N)」ボタンを押します。



概要が表示されますので、詳細を確認後「完了(F)」ボタンを押します。
ウィザードが完了すると、タスクスケジューラに戻ります。今作成したタスクが登録されているかどうか確認しておいてください。



これにて登録完了です。タスクスケジューラを終了してください。
今後、登録したタスクが自動実行するようになります。

最後に注意点ですが、Update は一度に 1 つしか実行できないアプリケーションです。タスクスケジューラに登録したタスクが実行される時間に Update を実行していると、タスクの実行が失敗してしまいます。その点は運用上うまく管理してください。

以上